

不透明な時代だからこそ「企画力」を磨こう

一般社団法人 日本経営協会講師 北野 清晃

皆さん、「企画」とは何でしょうか？企画は言わば、新たなテーマに取り組み始める際に、どのようなビジョンやゴールを描き、どのような道筋や課題を設定するかを、ゼロから考えて、デザインしていくプロセスです。「企画力」は、政策形成や業務改善などの仕事にも必要な力ですが、実は、プライベートでも必要な力です。家族で何かを決定する、大きな買い物をする、あるいは、人生やキャリアの選択をする、などの様々な意思決定の場面においても、企画力は思考の広さと深さ、創造的なアイデアをもたらしてくれます。企画力によって、よりよい職場や業務にもなりえますし、より豊かな人生にしてくれるかもしれません。また、近年のコロナ禍という状況を鑑みても、「いかに考えるか」を凝縮した企画力はタイムリーなテーマだと思います。限られた情報や時間の中でいかに考え、仮説を立ててやってみるか、臨機応変に軌道修正するか、は変化のスピードが速い不透明な時代だからこそ学んでほしい内容です。

もしかすると、「企画は真面目に考えないといけない」と思った人もいるかもしれません。しかし、企画は真面目に（論理性や合理性だけで）考えすぎてもなかなかうまく行きません。もちろん、論理性や合理性は必要ですが、これらだけでは実効性のある企画や、企画者本人が本当に面白くやりがいを持てる企画、にはなりません。企画には、論理的思考と対極にある「直感的思考」も重要です。自分の創造性や感性、経験を手がかりに、突飛なアイデア（周りが笑うようなアイデア）を、空気を読まずに出してみたり、他者のアイデアに便乗したりするなど、時に「楽しむ・遊ぶ」感覚が重要です。論理性や合理性だけでは突破できない固定概念や思い込みを外し、突破口を開くきっかけになったりします。

以上のような考えのもと、本研修では論理と直感を往復しながら、いかに「深く広く考えるか？」に焦点をあて、そのための思考法や技術を実践的に学んでもらいます。研修はワークショップ形式の参加型のプログラムです。講義だけではなく、クイズやワーク、演習など交えて、実際に企画サイクルを回してもらうので、仕事での活用にも繋がる実践的気づきを得てもらえると思います。企画には絶対的な正解はありません。自分ごとで考え、お互いに学び合い、“楽しみながら”企画力を磨こうという気持ちで本研修を受講いただくと、より学習効果が高いと思います。ぜひご参加をお待ちしております。



株式会社北野商会代表取締役 ワークショップデザイン研究所代表 京都大学非常勤講師
博士（総合学術）・専門修士（経営学）・修士（工学）・中小企業診断士・一級建築士

●金沢大学大学院を修了後、都市計画コンサルティング会社に入社。自治体の計画策定業務やまちづくりワークショップの企画運営に携わる。

●その後、人材育成を支援する公益法人に入職。企業や自治体の研修やセミナー、シンポジウム、委員会等の企画業務に8年間従事する。

●同社退職後、実家の中小企業支援に取り組むとともに、京都大学経営管理大学院（サービス価値創造プログラム）、京都大学大学院情報学研究科博士後期課程（デザイン学プログラム）にて、行動観察手法を用いた、組織デザイン、サービスデザインの研究活動に取り組む。

●現在は、企業や自治体にて、人材育成・組織開発・製品サービス開発に関する、プロジェクトやワークショップ、研修の企画に携わり、講師／ファシリテーターとして活躍している。”